

〔科目名〕 国際経済学				〔単位数〕 4 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 河野秀孝		〔オフィス・アワー〕 時間:月曜から金曜（5 限に授業のない日の午後 5 時から 6 時、その他はメールでアポを取る）。 場所:508 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 ボーダレス化が進む今日の社会では、国という枠組みを越え、様々なビジネスの分野においても、国際経済に対する認識は必須のものと考えます。マスコミに取り上げられる国際経済問題として、例えば、各国は世界規模の自由貿易のために努力すべきか、それとも、地域的な貿易協定を推進すべきかどうかの問題や、各国政府は資本や労働の自由な国際移動に干渉すべきかどうか等の問題が新聞やニュースで取り上げられています。本講義では、まず、古典的リカードやヘクシャオリーン等の伝統的モデルを履修し、近年の目覚しい理論及び実証モデルの発展にも言及しながら、様々な国際経済問題を例として、実証的かつ規範的分析を進めていきます。政策面では関税や補助金等による貿易政策に焦点をあてます。最後に、金融的側面にも触れ、統一的・論理的分析ができるようになる事を目指します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 国際経済学は、皆さんがこれまで履修した経済理論、特にミクロ経済学とマクロ経済学の応用で、国際的経済現象を題材とした <u>体系的論理的思考の訓練</u> であると考えて頂きたい。また、本講義では、代表的モデルを思考の枠組みとして学習しながら、論理的思考を受身的に学ぶのではなく、少数の基本的概念から、少し進んだ <u>分析的物語（モデル構築）</u> を学生各自が自力で作成できるようになることを念頭に、授業を進めるつもりです。簡単な算数といえども、目的に応じた分析的物語作成の際、強力な力を発揮することを味わって頂きたい。さらに、一見すれば、正しいまともな議論と思われるものでも、必ずしも説得力が充分であるとは限らないことにも気づいて頂きたい。 <u>説明責任の重要性</u> がますます認識される中、論理的思考力を高めることは、官民間わず、重要になって来ると考えます。講義を通して、まずは、論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。							
〔科目の到達目標〕 私たちが住んでいる今日の世界は相互依存関係にある国々によって構成され、国際経済に関する諸問題は、日々マスコミのニュースにもなっている。この事は、私たちの日常生活までも、海外から多大なる影響を受けていることを示している。本講義は、日々の私たちの生活への影響を、身近な事例として考えながら、皆さんが日本を取り巻く <u>国際経済の諸問題を統一的に理解・分析できるようになる</u> ことを目的とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業をこれまで以上に分かりやすくするために、以下の改善・工夫をします。 1. 具体的例を出来るだけ多くする。 2. 重要なところは反復をする。 3. 各授業のはじめに、前回の講義の要点に関して注意を喚起する。各自の理解度を認識してもらう。 4. 時間があれば、各モデルの講義の後、練習問題を通じて、モデルへの理解を深めてもらう。							

〔教科書〕 なし（資料の配布予定）。	
〔指定図書〕 なし。	
〔参考書〕 ● J.R.マークセン・J.R.メルビン・W.H.ケンプファー・K.E.マスカス（1999）松村敦子訳 『国際貿易 理論と実証（上・下巻）』多賀出版。 ● 資料の配布。	
〔前提科目〕 経済学基礎論、経営経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学を履修していることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） ● 1回の定期試験（期末試験）により、成績の総合評価をする。 <u>期末試験：100%</u> ● 評価の基準として、概ね、80%以上がA（毎年1割程度）、70%以上がB，60%以上がC，50%以上がD，50%未満をFとする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 まずは、皆さんに論理的思考の楽しさを味わって頂きたい。出来るだけ身近な事例を挙げ、分かりやすく、また、興味を引くように授業の進め方を工夫するつもりです。 皆さんへの要望として、経済の諸問題に関心を持ち、少なくとも日本経済新聞の「経済教室」と「やさしい経済学」欄は、毎日読むようにし、授業には積極的に参加してください。	
〔実務経歴〕 「製造業」	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):国際貿易の展望と重要性 内 容:国際貿易の意義、今日のグローバル経済化での経済関係。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか):供給と生産可能性 内 容:ミクロ経済学の供給サイドの復習。特に、生産可能性曲線の導出。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか):選考、需要、経済厚生 内 容:ミクロ経済学の供給サイドの需要サイドの復習。社会的無差別曲線とその妥当性。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか):閉鎖経済における一般均衡 内 容:基本的な一般均衡モデルの復習。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか):開放経済における一般均衡 内 容:貿易が行われている一般均衡モデル構造とその特徴。 教科書・指定図書

第 6 回	テーマ(何を学ぶか):貿易利益Ⅰ 内 容:純粹交換と供給サイドを加えた交換の利益。 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):貿易利益Ⅱ 内 容:貿易利益とその定理 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):交換による利益 内 容:交換だけのメリット 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):特化による利益 内 容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):交換と特化の利益 内 容:交換だけでなく、特化からの二重のメリットがある。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):嗜好の違いによる貿易の分配 内 容:貿易は嗜好・選好の違いでも貿易は行われる。その違いがあればあるほど、貿易のメリットは大きい。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):生産要素賦存の違いによる貿易の分配 内 容:一般均衡の枠組みで、各国の生産要素賦存の違いでも、貿易が行われる。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):復習Ⅰ 内 容:学生への質問と簡単な理解度チェック。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):復習Ⅱ 内 容:これまでの授業前半の復習。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):国際貿易の原因 内 容:なぜ国際貿易は行われているのか。そのメリットは何か。 教科書・指定図書
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):リカードモデル 内 容:供給サイドの各国の技術の相違によって、貿易のパターンを説明する。リカードの古典中の古典を講義。 教科書・指定図書
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):リカードモデル 内 容:一般に言われている比較優位の原則とはどういうことか。なぜ、多くの人が比較優位と絶対優位の区別がついていないのか。 教科書・指定図書
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーモデルⅠ 内 容:供給サイドの各国の相対的要素賦存比率の違いによって、貿易のパターンを説明する。 教科書・指定図書

第 19 回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅡ 内 容:このモデルの貿易論の古典であり、その後の理論の発展の基礎となっている。 教科書・指定図書
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅢ 内 容:このモデルの応用。 教科書・指定図書
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):ヘクシャー・オリーンモデルⅣ 内 容:このモデルの今日的・実証的有用性と、その後の発展。 教科書・指定図書
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデルⅠ 内 容:これまでの長期モデルに対しての短期モデル。 教科書・指定図書
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):特殊要素モデルⅡ 内 容:短期モデルの応用。 教科書・指定図書
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):貿易政策Ⅰ 内 容:税と補助金 教科書・指定図書
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):貿易政策Ⅱ 内 容:関税、輸入補助金、非関税障壁 教科書・指定図書
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):貿易と不完全競争 内 容:国内での不完全競争下での貿易のメリットは何か。 教科書・指定図書
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):規模に関する収穫通減 内 容:これまでの様に、規模に関して収穫一定ではなく、収穫通減または収穫通増下での貿易の効果はどのようなものであるか。 教科書・指定図書
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):嗜好・技術進歩と貿易 内 容:一国の経済厚生だけでなく、所得分配に対して、嗜好・技術進歩と貿易はどのような影響を与えるか。 教科書・指定図書
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):比較優位の実証研究 内 容:最近の実証研究からの貿易のメリットはどれくらいの金額として、試算されているか。例えば、日本の自由化のメリットやデメリットは金額的にはどれくらいになるだろうか。農業部門への損害・利益は、金額的試算によればどれくらいになるのか。日本の試算だけでなく、海外の試算も紹介する。 教科書・指定図書
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):期末試験前の復習 内 容: 教科書・指定図書
試 験	期末試験